

HPAI 発生を想定した危機管理対応

南丹家畜保健衛生所

○久保侑加 田中究

5 **【はじめに】**平成 16 年に国内 79 年ぶりに HPAI が発生して以降、京都府では家畜伝染病等対策マニュアルを整備する等、体制を強化。特に令和 2 年度は 11 月以降、全国各地で HPAI が続発し、過去最大規模の発生となる中、当所では農家指導と監視の強化に加え、農場別の HPAI の発生を想定した準備、関係機関との連携強化を実施。

10 **【取組内容】**農家指導と監視の強化（100 羽以上家きん飼養農場（23 戸）を対象に 11 月から翌 3 月まで毎月全戸巡回（延べ 145 戸））。農場別の HPAI の発生を想定した準備（①前線基地候補地、動員者の駐車スペース等の設定②防疫資材の算出・準備・保管③汚染物品の焼却・埋却の想定④防疫対応マニュアル・農家台帳の更新）。関係機関との連携強化（①農場規模別の具体的な防疫措置に関する説明会を実施②消毒ポイント・通行制限候補地等の設定と運営についての協議③動員予定者に対する各種研
15 修会の開催④農場跡地を利用したスターターチーム実地訓練の実施）。**【まとめ】**関係機関と協調して、発生時を想定したきめ細かな準備を進めるとともに、説明会や実地訓練を通して連携を強化。今後も引き続き農家に対し予防対策の徹底を指導するとともに、関係機関と緊密な連携を継続して、万一の発生時に迅速かつ的確な対応がとれるよう、防疫体制の強化に努める。